



「うどんこ病」と 「さび病」について

【指導員】 園芸果樹課 柿崎 慎悦

8月中旬となり、暦の上では秋を迎え、朝夕秋風が吹く頃となりました。そこで、これから発生が多くなる野菜病害2種類の特徴と防除方法についてお知らせします。

◆うどんこ病

【症状】葉に白い粉上の斑点が出来始め、放っておくと葉全体が白くなります。光合成を妨げることで、生育不良となったり、著しい場合は枯死に至ります。

【原因】発生温度は17～25℃で、カビの菌が原因で発病します。一般的に湿度の低い時期に発生しやすい特徴があります。また、多くの植物に発生しますが、野菜ではキウウリ・カボチャ・エンドウなどで見られ、果樹や草花、樹木にも発生します。

【対策】窒素肥料の過剰な生育がうどんこ病を発生しやすくするので、バランスの良い施肥を行います。また、密植状態もうどんこ病になりやすいので、株や葉の間を開けて風通しを良くします。キウウ

リなどでは、抵抗性品種を栽培することもあります。

【薬剤】アミスター20フロアブル、トリフミン水和剤、ラリー水和剤などを散布しましょう。（農薬は作物に登録の有無を確認し、適正な使用を心掛けましょう）



うどんこ病

◆さび病

【症状】さび病には、いくつか種類がありますが、代表例としてネギでは、始め白い小斑点を生じ、やがてその部分

が盛り上がってきて褐色の小斑点になり、表皮が破れて黄や赤褐色の粉末が飛び散るようになります。対策を講じないと葉全体をさび状粉が覆い、著しい場合は枯死します。

【原因】うどんこ病と同様カビの菌が原因で発病し、発生温度は15～20℃です。夏に低温多雨で秋に雨が多い場合に発生が助長される傾向にあります。また、多くの植物に発生しますが、野菜ではネギ・タマネギ・大根（白さび病）などで見られます。

【対策】適正な施肥を行い、植物を健全に生育させることが大切です。窒素過多や肥料切れに注意します。排水が悪く加湿状態の場合は、排水対策をしてください。また、被害株や残渣を圃場外に廃棄する事で、翌年の発生を軽減できます。

【薬剤】アミスター20フロアブル、テーク水和剤、ラリー



さび病

水和剤などを散布しましょう。（農薬は作物に登録の有無を確認し、適正な使用を心掛けましょう）



うどんこ病・さび病ともに予防防除が初発を遅らせ、激発を防ぐことにつながります。予防防除剤として、うどんこ病にはダコニール1000、さび病にジマンダイセン水和剤を準備しましょう。病害の発生を認めたら、なるべく早く薬剤散布（アミスター20フロアブルなど）することが大切です。生育状態を常に観察し、病害の無い作物栽培に努めましょう。